

この指とまれ、東城スポーツクラブ

奄美市立東城小中学校 PTA 副会長 師玉 当太

「ただいま。今日は何にする？走る？それともキャッチボール？バレー？」仕事が終わって家に着いたあとの娘たちとのいつもの会話です。

娘二人は東城小中学校に通っています。私もこの学校の卒業生です。私に通っていた頃は、学校が終わると、当たり前のようにスポーツ少年団や部活動に参加していました。

しかし、少子化や平成22年の奄美豪雨災害なども相まってほとんどの活動がなくなってしまうました。そして、子どもたちは学校が終わると、学童クラブでお迎えの時間を待つだけとなっていました。私の娘たちもそうでした。

「今日は走ってこよう。お友達も誘っていい？」娘に言われて近所の子どもたちを誘い、走ったり、ボールを使って遊んだりしました。久しぶりに子どもが外に出て集団で遊ん

でいるのを見た気がしました。「今日みたいに皆で何かできた方がいいのね。」
「お父さんが教えてすればいいのに。」

娘のこの一言がきっかけで、同じ集落の子どもたちを集めて保護者の協力をもらいながら、陸上練習をしたり、色々な球技をしったりする活動を始

めました。

現在、我が家の遊びから始まったこの活動は、東城スポーツクラブとして20名近い児童生徒が参加し、各大会などで輝いています。私は、スポーツを通して地域の活性化に繋がるようなチャレンジを子どもたちと一緒に重ねていきたいと思っています。



スポーツクラブ練習風景

私の忘れられない思い出の一曲

見上げてごらん夜の星を

鹿児島市立玉江小学校 PTA 会長 富永 尚

令和元年4月。伊敷校区三校(伊敷中・草牟田小・玉江小)のおやじ会有志で、同時期に退職される三校校長先生の「三校合同校長先生退職祝」を計画しました。

退職祝での催しの一つに、ライブ演奏を披露することになり、現役で活動する方から、若い頃ライ

ブ演奏していた方まで6人編成で「おやじバンド」を結成しました。その当時、夜ごと練習した三曲のうちの一曲が「見上げてごらん夜の星を」。

ご存じ坂本九さんが歌う名曲です。たくさんのお悩みを抱えながらも、手を取り合って夢に向かって進んでいくという歌詞が、幅広い世代の胸を打つ楽曲で、たくさんアーティストがカバーしています。

残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大により、開催日直前中止が決定し、おやじバンドのデビューは幻となってしまいました。しかし、一つの目標に向かって、仲間と何かを作り上げる喜びは、何ものにも代え難い宝物であると再認識することができた一曲です。



おやじバンドのスタジオでの練習風景